

邑南町第3次総合振興計画〈別冊・資料編〉

地域とつながり、挑戦を育む町



邑南町

Contents — 別冊・資料編

01 人口ビジョン

人口ビジョンとは	P.01
邑南町を取り巻く環境	P.03
邑南町人口ビジョン	P.07

02 実施計画

邑南町まち・ひと・しごと創生総合戦略2026

「第3次総合振興計画」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略2026」との関係	P.09
SDGsの観点	P.10
具体的事業	P.12

03 総合振興計画策定プロセス

計画策定プロセスの概要	P.26
住民会議・ヒアリング等の実施概要	P.27
① ヒアリング等で得られた意見の概要	
② 住民会議「おおなんの未来を語ろう!2035」	
③ メッセージ・ツリー	
④ 子どもたちが描く10年後の邑南町	
振興計画審議会の経過	P.39
振興計画審議会委員名簿	P.40

04 関連資料

用語解説	P.41
町民憲章・条例	P.45
① 邑南町民憲章	
② 邑南町まちづくり基本条例	
③ 邑南町振興計画審議会条例	

01

人口ビジョン

人口ビジョンとは①

①人口ビジョン

邑南町における人口の現状を分析し、人口に関する見通しを立てた上で地域の中で共有し、将来目指すべき人口の目標を提示するものです。目標年次を2035年としているのは、現在の人口減少傾向に対して速やかに対処する必要があるためです。また、10年という期間は課題を先送りにせず、直ちに行動を起こすべき中期的な期間として設定しています。

②2035年の目標人口と実現への取り組み

邑南町は、2026年3月に策定した人口ビジョンに基づき、2035年に人口8,000人を維持することを目指して取り組みを推進します。目標を8,000人とした理由は、人口減少のスピードを現状よりも緩和させ、将来的に安定した人口構造へ移行するための重要な途中段階であると捉えているためです。

③データの活用と検証方法

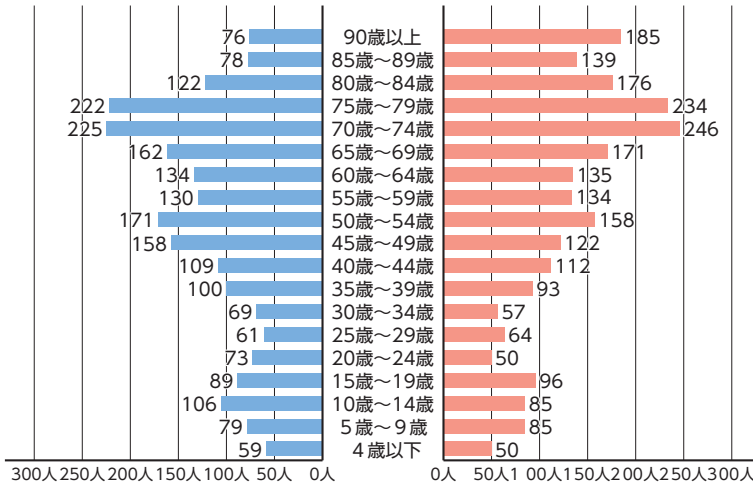
このビジョンは、島根県中山間地域研究センターが示す邑南町の将来推計人口を基礎としています。住民基本台帳のデータに基づいて毎年推計が更新されるため、目標と実績を比較しながら、総人口や人口ピラミッドの形を継続的に確認することが可能です。

01

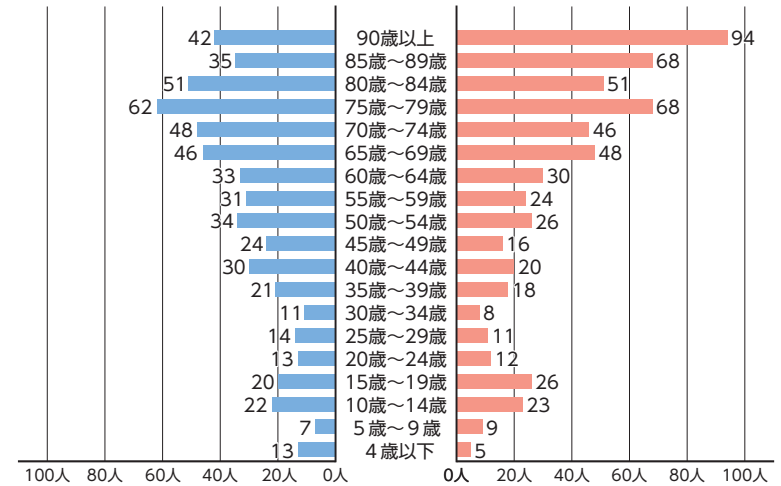
人口ビジョンとは②

人口ビジョン

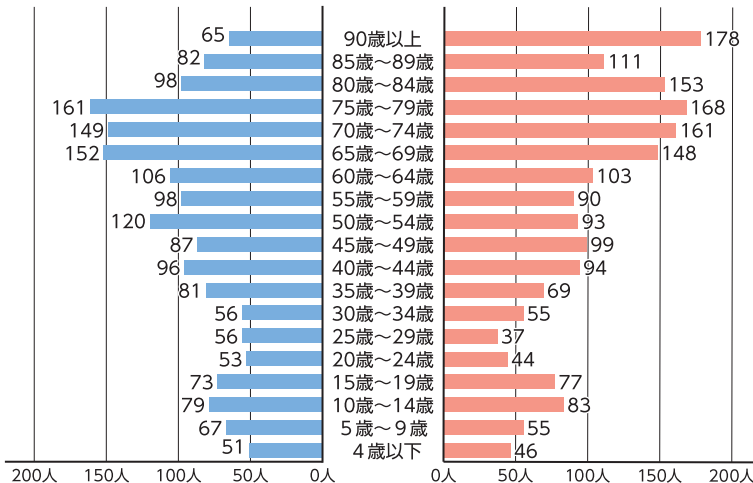
2025年 石見地域人口ピラミッド



2025年 羽須美地域人口ピラミッド



2025年 瑞穂地域人口ピラミッド



■ 男性 ■ 女性 出典：邑南町 住民基本台帳

3地域の人口構成の比較

- 石見地域 総人口 4,615人／高齢化率 44.1%
- 瑞穂地域 総人口 3,594人／高齢化率 45.2%
- 羽須美地域 総人口 1,160人／高齢化率 56.8%

01

人口ビジョン

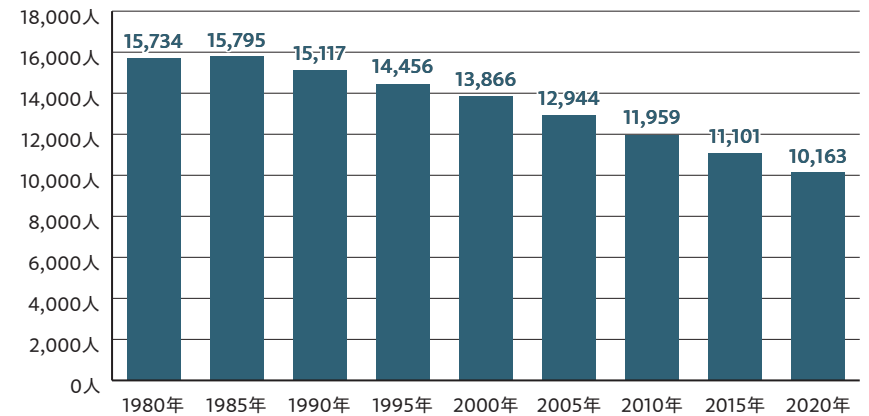
邑南町を取り巻く環境①

人口動態

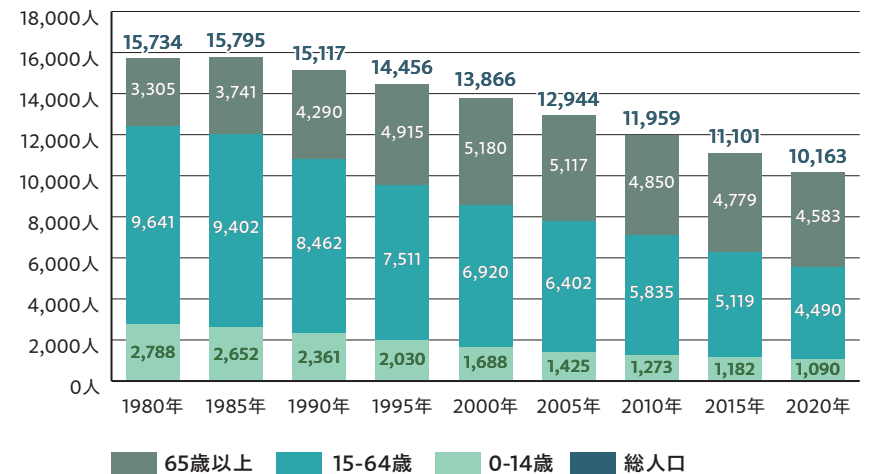
① 総人口の推移

邑南町の総人口は、1985年（昭和60年）の15,795人をピークとして、それ以降は減少に転じています。直近の2020年（令和2年）には10,163人まで減少しており、1985年と比較すると、2020年時点では約35%以上の人口が減少しています。年齢で3区分した各層の状況を見ると、1980年時点では生産年齢人口が全体の約6割を占めていましたが、2020年には老年人口が生産年齢人口を上回る逆転現象が起きており、14歳以下の減少と合わせて、深刻な少子高齢化が進行しています。

総人口の推移（年齢不詳を含む）



人口区分の推移（年齢3区分別）



出典：総務省 国勢調査

01

人口ビジョン

邑南町を取り巻く環境①

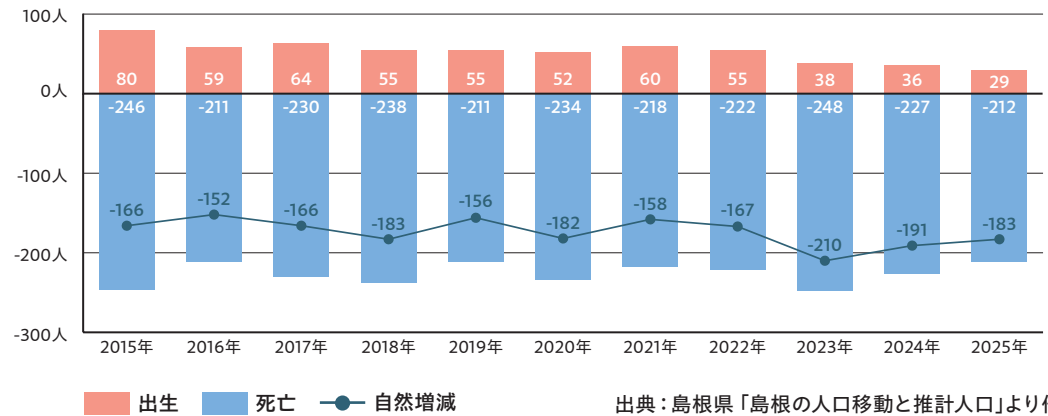
人口動態

②自然動態(出生と死亡)

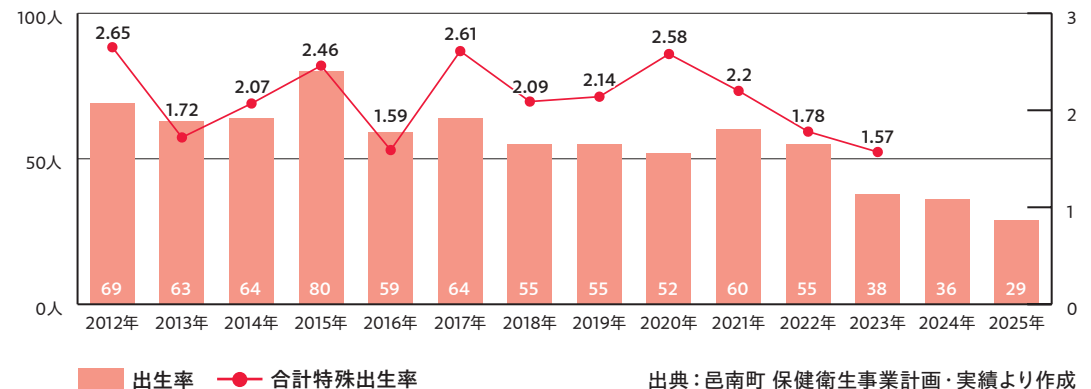
自然動態の推移を見てみると、自然減(生まれる人よりも亡くなる人が多い状態)が続いています。今後も自然減が続いていくものと考えられます。また、人口規模を維持するために必要とされる水準(人口置換水準)は、合計特殊出生率で約2.07とされています。

2020年(令和2年)の2.58や2017年(平成29年)の2.61など、人口置換水準を上回る数値を記録している年が多くありますが、棒グラフが示す「出生数」は減少傾向にあります。これは地域に住む親の世代が減少傾向にあることが要因と考えられます。

自然動態の推移(出生と死亡)



出生数と合計特殊出生率の推移



01

人口ビジョン

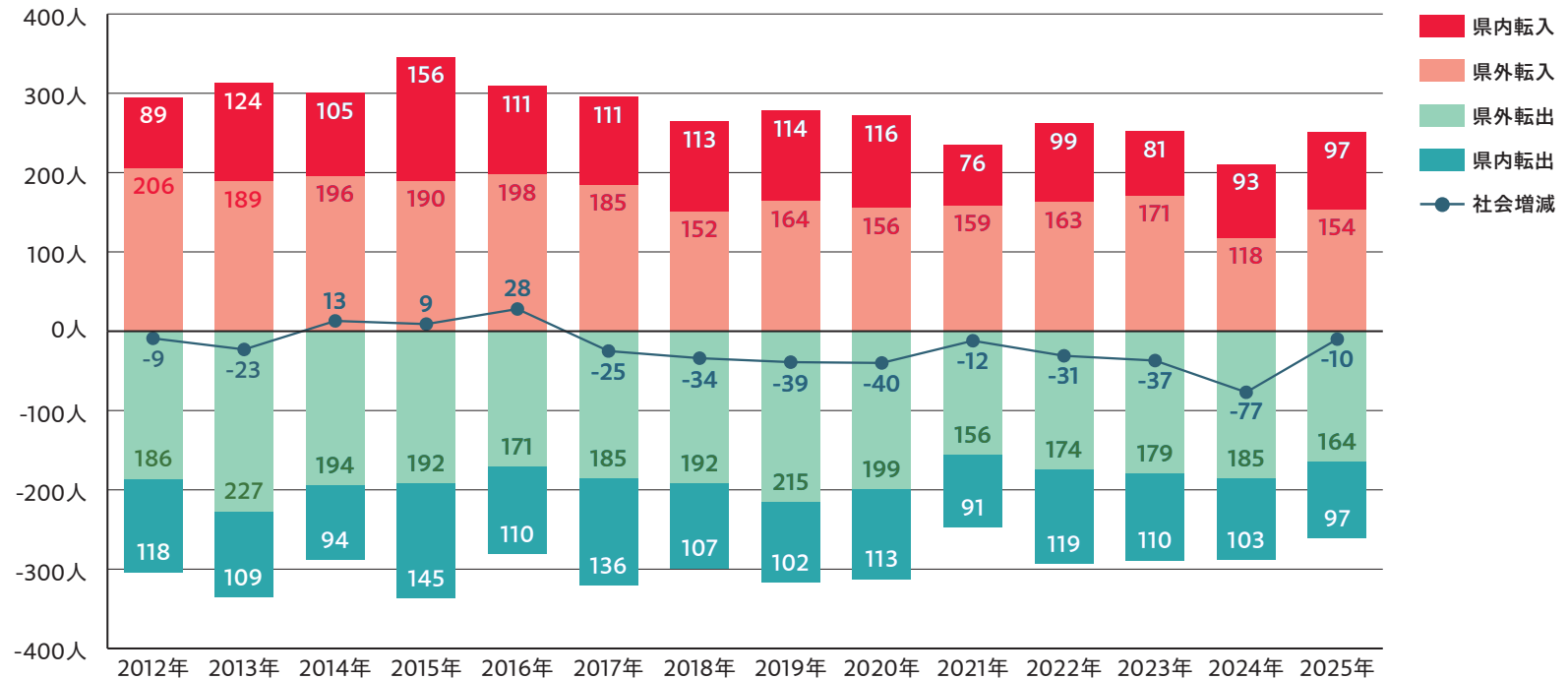
邑南町を取り巻く環境②

人口動態

③ 社会動態 (転入と転出)

転入者数から転出者数を差し引いた社会動態の推移を見ると、2014年(平成26年)から2016年(平成28年)には一時的な「社会増」が見られたものの、近年は一貫して転出が転入を上回る「社会減」の傾向が続いています。転入の量については近年微減傾向がみられます。反対に転出については大きな変化は見られず、250人前後が毎年転出しています。

社会増減の推移 (転入と転出)



出典：島根県「島根の人口移動と推計人口」より作成

01

人口ビジョン

邑南町を取り巻く環境②

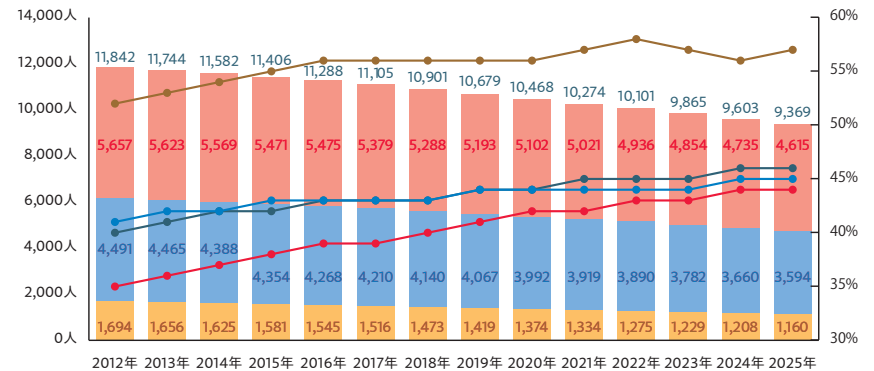
3地域別の状況

羽須美地域の高齢化率は56.8%に達しており、3地域の中で最も深刻な少子高齢化の状態にあります。瑞穂地域と石見地域も高齢化率が45%前後となっており、どの地域も現役世代の層が薄く、高齢者層が厚い「逆ピラミッド型」の構成が顕著です。2012年(平成24年)以降、3地域すべての人口が減少を続ける一方で、高齢化率は一貫して上昇しています。特に羽須美地域では人口の減少幅が大きく、地域によって高齢化の進行スピードに差があることが表れています。

現状の傾向が続くと、羽須美地域の高齢化率はピークを超えて徐々に下がっていくことが予想されますが、瑞穂地域、石見地域の高齢化率は引き続き上昇していくことが予想されます。

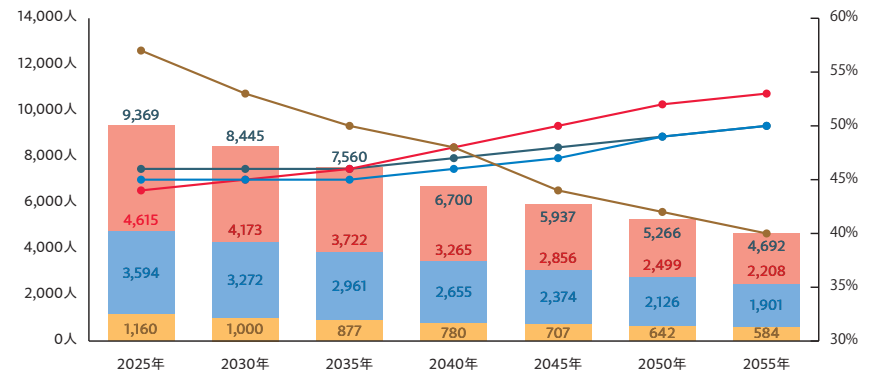
- 石見地域高齢化率 ● 瑞穂地域高齢化率 ● 羽須美地域高齢化率
- 石見地域人口 ■ 瑞穂地域人口 ■ 羽須美地域人口 ● 邑南町高齢化率

3地域人口・高齢化率の推移



出典：邑南町 住民基本台帳

3地域人口・高齢化率の推移(推計)



出典：島根県中山間地域研究センター 人口推計結果(2020年-2025年人口データ)より作成

01

人口ビジョン

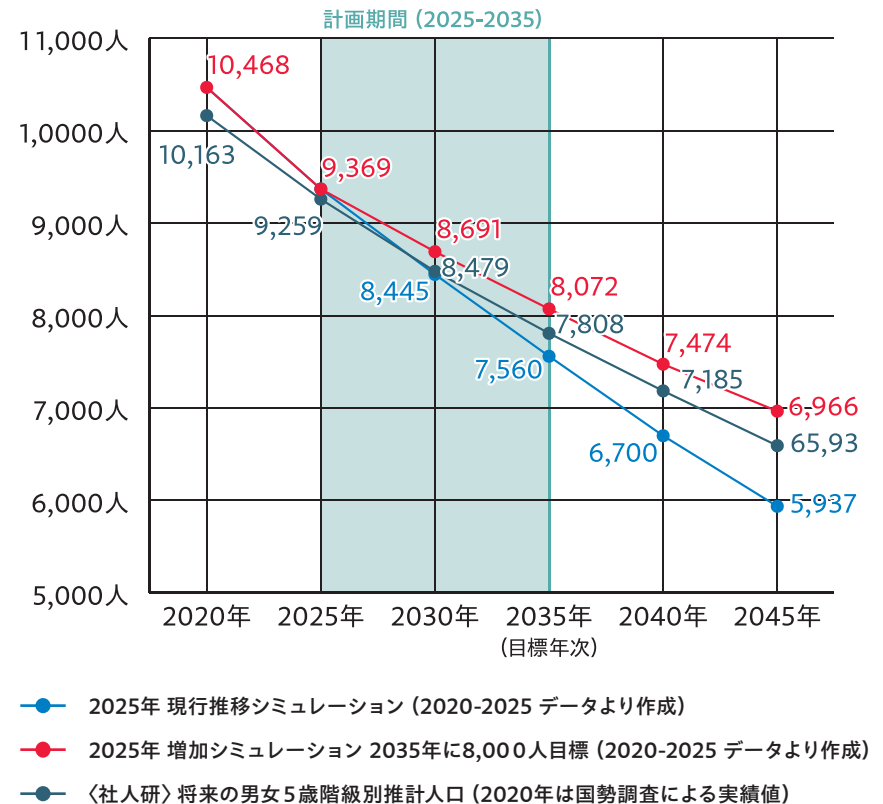
邑南町人口ビジョン①

人口目標

現在の減少傾向が継続すれば、2035年の人口は7,560人まで縮小する予測です。一方、2026年（令和8年）から20代前半・30代前半子連れ・60代前半が毎年各6.3組ずつの定住を促進することで、予測比で約500人の増加が推計されます。

これは、急激な減少に歯止めをかけ、将来的に安定した人口構造へと向かうための道筋です。この数値を指標とし、2035年の目標人口を8,000人と定めています。

邑南町人口推計の比較



出典：島根県中山間地域研究センター 人口推計結果 (2020年 - 2025年人口データ)より作成

01

人口ビジョン

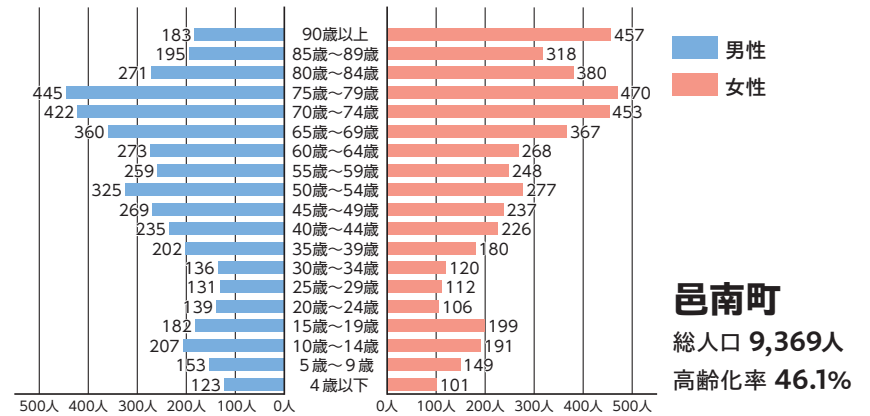
邑南町人口ビジョン②

邑南町の定住増加シナリオ

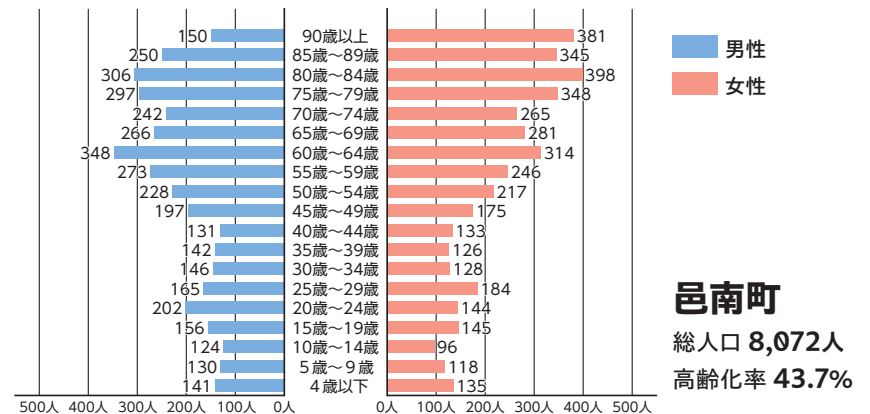
2025年(令和7年)時点の邑南町全域の高齢化率は46.1%となっており、特に70代後半の層が最も厚い構成です。若年層から現役世代にかけての人数が極めて少なく、少子高齢化が町全体の構造的な課題となっていることがわかります。

2026年(令和8年)から町内に20代前半・30代前半子連れ夫婦・60代前半がそれぞれ6.3組ずつ毎年定住増加した場合、2035年には20代後半から30代後半にかけての層が厚くなり、高齢化率は43.7%に抑制されます。若年世代の流入によって、単なる人口維持だけでなく、よりバランスの取れた持続可能な人口構造へと移行する効果が期待できます。

2025年 人口ピラミッド(現状)



2035年 人口ピラミッド(推計)



出典：邑南町 住民基本台帳

02

実施計画

邑南町まち・ひと・しごと創生総合戦略2026①

「第3次総合振興計画」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略2026」との関係

邑南町第3次総合振興計画では、基本理念を「地域とつながり、挑戦を育む町」とし、町民と行政が協働で取り組むまちづくりを目指します。総合戦略は、総合振興計画における基本計画や実施計画（邑南町過疎地域持続的発展計画）に沿って進められている事業のうち、人口減少の抑制と地方創生の目的を達成するための事業を絞り込むこと、併せて「邑南町行財政改善計画」による事務事業の見直しや施設の合理化を、民間や地域運営組織、住民との協働によるまちづくりに結びつけることなど、主要計画の実効性を一層高めるために、総合振興計画の中に取り込む形で目標・施策の設定と推進体制や連携方針を一体的に示すものです。

邑南町第3次総合振興計画

基本構想

基本計画

実施計画

邑南町過疎地域
持続的発展計画

邑南町
まち・ひと・しごと創生
総合戦略2026

邑南町
人口ビジョン

02

実施計画

邑南町まち・ひと・しごと創生総合戦略2026②

SDGsの観点

2015年9月、国連本部において、持続可能な開発サミットが開かれ、「持続可能な開発のためのアジェンダ」が採択されました。これは、17の目標と169のターゲットからなり、先進国、発展途上国を問わず、世界全体の経済、社会及び環境の三側面における持続可能な開発を統合的取り組みとして推進し、2030年を期限として、地球上の「誰一人として取り残さない (Leave no one behind)」ことを誓うものです。

日本においても、2016年に持続可能な開発目標 (SDGs) 推進本部が内閣に設置され、国家戦略として「持続可能な開発目標 (SDGs) 実施指針」が示されました。そして、自治体においても政策を最適化し、各地域の諸課題の解決を加速化するものと捉え、まち・ひと・しごと創生総合戦略において、持続可能な開発を目指すこととしています。

邑南町第3次総合振興計画 (邑南町まち・ひと・しごと創生総合戦略2026を含む) で掲げる事業にも、SDGsの考えを取り入れ、誰一人取り残さず、まちの将来を切り拓く一員として活躍できる共生社会の実現を目指し、基本理念である「地域とつながり、挑戦を育む町」の実現に向けて取り組んでいきます。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

02 SDGsの17目標

実施計画



あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる



飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する



あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を保障し、福祉を促進する



すべての人に包括的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する



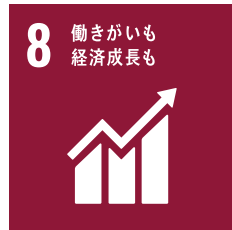
ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う



すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能性と持続可能な管理を確保する



すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する



包括的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する



強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る



国内及び各国間間の不平等を是正する



包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する



持続可能な消費生産形態を確保する



気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる



持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する



陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する



持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する



持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する



引用：外務省資料「持続可能な開発のための2030アジェンダ」

02

具体的事業①

実施計画

分野	ひとを育てる
テーマ	I. 地域社会で共に育てる「子育て環境」の向上



KPI (重要業績評価指標) の名称	ODI 指標	指標	単位	現状値	目標値	総合戦略
①自分のことを好ましく感じる	★	自己肯定感	%	33	50	●
②地域社会や誰かの役に立てていると感じる	★	自己有用感	%	20	40	●
具体的な施策						
①妊娠期・産後・子育て期の支援体制の充実	②子どもの遊び場の確保	③不妊・不育症治療費、交通費助成事業				
④縁結び事業の支援	⑤子ども医療費助成事業	⑥妊娠期からの切れ目のない相談支援体制の充実				
⑦支援の必要な子どものサポート体制充実	⑧子どもまるごと相談室	⑨特別保育事業の充実				
⑩町産材つみきによる誕生お祝い事業						

分野	ひとを育てる
テーマ	II. 幼少期からの健康づくりで心も身体も大事にケア



KPI (重要業績評価指標) の名称	ODI 指標	指標	単位	現状値	目標値	総合戦略
①身体的に健康である	★	フィジカルヘルス	%	53	65	●
②精神的に健康である	★	メンタルヘルス	%	56	65	●
③色々なスポーツに関われる機会がしっかりとある	★	スポーツ環境	%	-	50	●
具体的な施策						
①多様な主体と連携した健康づくり・フレイル予防の推進	②総合的な食育の推進	③地産地消コーディネーターの配置				
④生活習慣病対策の推進	⑤スポーツによるまちづくり方針の周知と推進	⑥食の学校活用				

ODI(おおなん活力インデックス)とは... 総合振興計画で掲げる施策等による効果を測定するための指標で、アンケート調査を通じて町民目線で評価する手法を取り入れました。

02

実施計画

具体的事業②

分野	ひとを育てる
テーマ	Ⅲ. 学校・家庭・地域が一体となった「おおなん学」の推進



KPI (重要業績評価指標) の名称	ODI 指標	指標	単位	現状値	目標値	総合戦略
①子どもたちがいきいきと暮らせる	★	子どもの活力	%	26	40	●
②文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	★	シビックプライド	%	16	40	●
具体的な施策						
①学校司書の配置	②一校一菜運動事業	③フィンランド共和国との交流事業				
④おおなん学の確立・推進	⑤子どものロールモデルマッチング	⑥地域学校及びふるさと教育の推進				
⑦コミュニティスクールの推進	⑧小中高のキャリア教育の推進	⑨保小中高特支連携の体制構築				
⑩文化財や伝統芸能の保存・継承と活用推進	⑪瑞穂ハンザケ自然館・郷土館・久喜銀山等の自然文化の研究と発信					

分野	ひとを育てる
テーマ	Ⅳ. 邑南町の教育にあった学校の在り方の研究・実現



KPI (重要業績評価指標) の名称	ODI 指標	指標	単位	現状値	目標値	総合戦略
①一人ひとりの特性に応じた学びが享受できる	★	個別最適な学び	%	-	50	●
②学びたいことを学べる機会がある	★	学びの機会	%	13	35	●
③町内中学生の矢上高校オープンスクール参加割合		学びの機会	%	56.1	65	●
具体的な施策						
①矢上高校・石見養護学校魅力化コンソーシアムの推進	②教師力向上対策事業	③学力向上事業				
④矢上高校魅力化事業	⑤矢上高校地域サポート事業	⑥学習・生活支援員等の配置				
⑦照明器具のLED化・トイレの洋式化の推進	⑧学校給食の充実	⑨ICT環境整備事業				

02

具体的事業③

実施計画

分野	ひとを育てる
テーマ	V. 地域での活躍を後押し一邑南町の未来を描く学び



KPI (重要業績評価指標) の名称	ODI指標	指標	単位	現状値	目標値	総合戦略
① 学びたいことを学べる機会がある	★	学びの機会	%	13	35	●
② 地域おこし協力隊等の制度を活用した移住者数		制度利用による移住者数	人	58	100	●
具体的な施策						
① 地域におけるデジタル人材の育成・確保の推進	② 各種コーディネーターのネットワーク構築					
③ 町内外の人材還流促進	④ 邑南町奨学金制度					

分野	ひとを育てる
テーマ	VI. 公民館エリアの地域資源を生かした教育の充実



KPI (重要業績評価指標) の名称	ODI指標	指標	単位	現状値	目標値	総合戦略
① 文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	★	地域文化等への誇り	%	16	40	●
② 地域活動への参加が盛んである	★	活動参加	%	34.6	45	●
具体的な施策						
① 公民館等を生かした社会教育の充実	② 人権・同和教育の啓発・推進					

02

実施計画

具体的事業④

分野	しごとを伸ばす
テーマ	I. テクノロジーを活用した持続可能な農林水産業の実現



KPI (重要業績評価指標) の名称	ODI 指標	指標	単位	現状値	目標値	総合戦略
① 農業や林業での生産や販売は成果を上げてきていると思う	★	農業振興成果	%	-	50	●
② 新規就農者数 (令和8~17年度累計)		新規就農者	人	-	20	●
具体的な施策						
① 新規就農者支援	② 農業研修制度の拡充	③ 農林業担い手育成・確保支援				
④ 農業者間連携の推進	⑤ 水田を活用した園芸の推進	⑥ 町内産農産物の販路確保 (道の駅 邑南の里・雲井の里等)				
⑦ ICTなどを活用したスマート農業の推進	⑧ 棚田地域の持続的発展のための支援	⑨ ほ場・水路等の整備による効率的農業経営基盤づくり				
⑩ 情報発信・販路開拓による農林水産業の所得向上	⑪ 農林業を学ぶ教育機会の充実	⑫ 優良農地の集約による生産性の向上				
⑬ 鳥獣害防止対策推進						

分野	しごとを伸ばす
テーマ	II. 豊富な森林資源の有効活用と循環型林業の確立



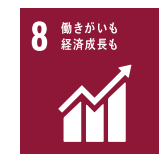
KPI (重要業績評価指標) の名称	ODI 指標	指標	単位	現状値	目標値	総合戦略
① 林業に関する生産・販売・利用は以前よりも向上してきていると思う	★	林業振興成果	%	-	50	●
② 山林の手入れや利用は充実してきていると思う	★	山林の手入れ度	%	-	50	●
具体的な施策						
① 町内産材を使用した木材製品の開発、販売	② 森林の集約化による森林整備の推進	③ 木育の推進と町産材の理解促進				
④ 産官民連携による林業DXの推進と人材育成	⑤ 循環型林業の推進					

02

実施計画

具体的事業⑤

分野	しごとを伸ばす
テーマ	Ⅲ. 起業・第二創業等の町内事業者の挑戦を支援

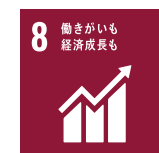


KPI (重要業績評価指標) の名称	ODI指標	指標	単位	現状値	目標値	総合戦略
① 毎年の新規創業・第二創業の数		新規創業等数	件	5	7	●
② 事業者満足度	★	事業者満足度	%	-	50	●
③ 新たなことに挑戦・成長するための機会がある	★	挑戦の機会	%	8	30	●

具体的な施策

① 地域内での経済循環の拡大	② 貸しオフィス等整備支援	③ キャッシュレス化の促進
④ おおなん相談所を中心とした事業者支援		

分野	しごとを伸ばす
テーマ	Ⅳ. 道の駅や農産物直売所を起点に観光による経済波及



KPI (重要業績評価指標) の名称	ODI指標	指標	単位	現状値	目標値	総合戦略
① 多言語対応・発信状況		対応言語数	言語	3	6	●
② 観光協会によるツアー催行数		ツアー催行数	回	4	6	●

具体的な施策

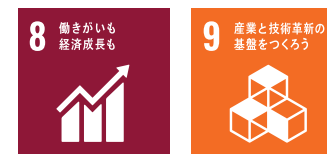
① 三江線跡地利活用事業	② 観光情報の多言語発信	③ 農家民泊受け入れ
④ 観光協会及び他圏域との連携強化	⑤ 宿泊客の誘致	⑥ 観光ガイド養成と観光案内機能の拡充
⑦ 観光関連施設のキャッシュレス化	⑧ 観光ルート・滞在型メニュー開発	

02

具体的事業⑥

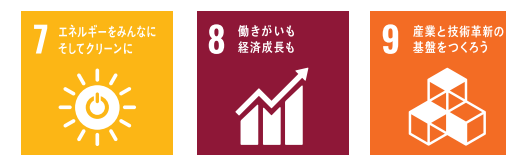
実施計画

分野	しごとを伸ばす
テーマ	V. 邑南町の新たなイメージ戦略とその活用



KPI (重要業績評価指標) の名称	ODI指標	指標	単位	現状値	目標値	総合戦略
① 邑南町が運用するSNS総フォロワー数		SNS総フォロワー数	人	5,382	10,000	●
具体的な施策						
① 島根県オリジナルぶどう「神紅」の取り組みの推進、ブランド化		② 邑南ブランド、新たな特産品、ものづくり産業の創出				
③ シティプロモーション (対外的なコミュニケーション活性化)						

分野	しごとを伸ばす
テーマ	VI. 邑南町の自然を守り・生かすー環境産業の推進



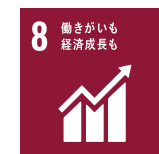
KPI (重要業績評価指標) の名称	ODI指標	指標	単位	現状値	目標値	総合戦略
① リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取り組みが盛んである	★	環境への取り組み度	%	13	30	●
② 自慢できる自然景観がある	★	自然景観の誇り	%	51.8	65	●
具体的な施策						
① J-クレジット制度等を活用した森林資源の付加価値化		② エネルギーの地産地消による経済循環の推進				

02

具体的事業⑦

実施計画

分野	しごとを伸ばす
テーマ	VII. 多様な働き方ニーズを満たし、働くひとを応援



KPI (重要業績評価指標) の名称	ODI指標	指標	単位	現状値	目標値	総合戦略
①適切な収入を得るための機会がある	★	所得・収入	%	13	30	●
②挑戦・成長するための機会がある	★	自己成長	%	8	30	●
③キャリアアップ、資格取得を積極的に応援している	★	キャリアサポート	%	-	50	●

具体的な施策

①多様な人材の確保（農福連携・外国人・スキマバイト等）	②邑南町女性活躍・子育て認定の企業表彰
③進出企業会との連携強化、企業誘致	

分野	しごとを伸ばす
テーマ	VIII. 事業承継・組織連携・人材確保を通じた事業継続支援



KPI (重要業績評価指標) の名称	ODI指標	指標	単位	現状値	目標値	総合戦略
①自分の仕事に満足している	★	仕事への満足度	%	48.3	70	●
②やりたい仕事を見つけやすい	★	希望職種	%	5.7	20	●

具体的な施策

①人材確保実施計画の推進	②異業種連携コーディネート機能の強化
③農林業後継者育成奨学金制度	④産学官連携による人材育成・還流・定着事業

02

実施計画

具体的事業⑧

分野	くらしを守る
テーマ	I. 道路網維持と施設の長寿命化でインフラを次代に継承



KPI (重要業績評価指標) の名称	ODI 指標	指標	単位	現状値	目標値	総合戦略
①町道・歩道等の満足度	★	町道等満足度	%	19.5	30	●
具体的な施策						
①次代につなぐインフラ強化		②道路交通などの既存インフラの維持				
③幹線道路の早期改良実現		④町有資産利活用の推進				

分野	くらしを守る
テーマ	II. 山と川、生物多様性を保全し、安定した水源を確保



KPI (重要業績評価指標) の名称	ODI 指標	指標	単位	現状値	目標値	総合戦略
①汚水処理人口普及率		普及率	%	92.7	95	●
②有収率		有収率	%	70.2	80	●
③空気や水は澄んでいてきれいだと感じる	★	空気・水満足度	%	82.2	85	●
具体的な施策						
①上下水道施設の管理・整備事業		②水源確保、施設機能強化				
③山・川の調査等による自然環境の維持		④水源地保全等に関する広報				

02

実施計画

具体的事業⑨

分野	くらしを守る
テーマ	Ⅲ. 町民の生命と財産を守る—災害・獣害を防ぐ地域の備え



KPI (重要業績評価指標) の名称	ODI指標	指標	単位	現状値	目標値	総合戦略
①防災対策がしっかりしていると感じる	★	防災対策満足度	%	21.8	50	●
具体的な施策						
①森づくり等を通じた防災・減災の推進		②自主防災組織の活動支援				
③防災士養成事業		④鳥獣害被害防止の取り組み推進				
⑤防災：河川改修、治山・砂防事業						

分野	くらしを守る
テーマ	Ⅳ. 誰もが利用しやすい超高速通信インフラの展開



KPI (重要業績評価指標) の名称	ODI指標	指標	単位	現状値	目標値	総合戦略
①仕事や日常生活でデジタルサービスを利用しやすいと感じる	★	デジタルサービス満足度	%	17.5	35	●
②超高速インターネット環境の整備		超高速インターネットサービス	-	-	提供開始	●
具体的な施策						
①情報通信施設の維持、機器更新		②超高速インターネット環境検討				

02

実施計画

具体的事業⑩

分野	くらしを守る
テーマ	V. スマート化による効率的な地籍調査



KPI (重要業績評価指標) の名称	ODI指標	指標	単位	現状値	目標値	総合戦略
①地籍調査進捗率(年間)		年間進捗率	%	1	1	●

具体的な施策

①地籍調査の高度化・スマート化

分野	くらしを守る
テーマ	VI. 住まいづくりと空き家活用で移住・定住支援



KPI (重要業績評価指標) の名称	ODI指標	指標	単位	現状値	目標値	総合戦略
①住宅相談センターにおける相談人数		相談人数	人	48	55	●
②適度な費用で住居を確保できる	★	住宅確保の容易さ	%	28.7	40	●

具体的な施策

①空き家バンク事業の推進	②移住体験事業
③わくわく邑南生活実現支援事業の促進	④空き家対策等の推進による社会増
⑤住居確保、空き家改修対策	⑥移住希望者への相談体制充実
⑦危険空き家の除却等による地域の安心づくり	

02

具体的事業⑪

実施計画

分野	つながりを深める
テーマ	I. 多様な力を結集した地域コミュニティの育成



KPI (重要業績評価指標) の名称	ODI指標	指標	単位	現状値	目標値	総合戦略
①自分だけでなく身近な人・周りの人も楽しい気持ちでいると思う	★	楽しい暮らし	%	25.3	40	●
②暮らしている地区の雰囲気は、自分にとって心地よい	★	地域の雰囲気	%	51.1	70	●
③地区は女性が活躍しやすい雰囲気がある	★	女性活躍の気風	%	15.5	30	●
④地区は若者が活躍しやすい雰囲気がある	★	若者活躍の気風	%	19.5	30	●
具体的な施策						
①地域運営組織の形成および運営支援	②地域マネージャーの配置と育成支援	③クラウドファンディングの推進				
④ふるさと寄附の充実	⑤住民会議等の情報交換、交流の場づくり推進	⑥町民参加の協働のまちづくり				
⑦NPO法人等の事業実施組織の設立支援	⑧地域の拠点となるコミュニティセンターの整備、充実					

分野	つながりを深める
テーマ	II. 地域での暮らしをあきめない医療・福祉の推進



KPI (重要業績評価指標) の名称	ODI指標	指標	単位	現状値	目標値	総合戦略
①2、3年先の暮らしの見通しが立つ	★	暮らしの見通し	%	-	60	●
具体的な施策						
①介護予防事業の体制整備(再構築)	②医療福祉従事者確保奨学金制度	③医師・看護師・薬剤師等の確保				
④医療福祉施設の維持、存続活動	⑤地域と連携して生活支援等の体制整備	⑥高齢者見守りネットワークの構築、充実				
⑦わかりやすい福祉情報の発信	⑧介護家族、支援者の孤立防止					

02

具体的事業⑫

実施計画

分野	つながりを深める
テーマ	Ⅲ. 外国人も含めた多文化共生のまちづくりを推進



KPI (重要業績評価指標) の名称	ODI指標	指標	単位	現状値	目標値	総合戦略
①住んでいる地区に愛着を感じる	★	シビックプライド	%	49.4	60	●
②どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	★	自地域の雰囲気	%	18.3	30	●
③同じ町内に住む人たちを信頼している	★	地域の信頼	%	52.9	70	●
具体的な施策						
①多文化共生の推進	②若者や女性にも選ばれる地域づくり					
③権利擁護の推進	④多様な人材が活躍できる環境の実現					

分野	つながりを深める
テーマ	Ⅳ. 使いやすい交通手段・移動支援の仕組みづくり



KPI (重要業績評価指標) の名称	ODI指標	指標	単位	現状値	目標値	総合戦略
①日常の買い物に不便がない	★	日常の買い物	%	25.3	40	●
②ネット通販、業務上の郵送等物流に不便がない	★	物流満足度	%	-	50	●
③買い物・通院等で必要な移動が問題なくできる	★	移動ニーズ満足度	%	6.9	30	●
具体的な施策						
①邑南町地域公共交通計画に基づく公共交通ネットワークの再編	②協働による交通結節点・地域拠点の整備					
③持続可能な生活交通システム構築	④移動支援・交通支援の仕組み構築 (買い物環境の維持向上)					

02

具体的事業⑬

実施計画

分野	つながりを深める
テーマ	V. 災害からしなやかに立ち上げられる防災体制づくり



KPI (重要業績評価指標) の名称	ODI指標	指標	単位	現状値	目標値	総合戦略
①防災対策がしっかりしていると感じる	★	防災対策満足度	%	21.8	50	●
②集落や地区の人が困っていたら手助けする	★	互助意識	%	55.8	70	●
具体的な施策						
①災害備蓄品整備事業	②自治体間の広域連携の推進					
③災害対応体制の構築・拡充	④防災DXの推進					

分野	つながりを深める
テーマ	IV. 使いやすい交通手段・移動支援の仕組みづくり



KPI (重要業績評価指標) の名称	ODI指標	指標	単位	現状値	目標値	総合戦略
①一般廃棄物の排出量		ごみの減量	t	2,502	2,310	●
②リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取り組みが盛んである	★	環境保全への取り組み意識	%	16	30	●
具体的な施策						
①3Rの取り組み推進	②再生可能エネルギーの活用推進					

02

具体的事業⑭

実施計画

分野	つながりを深める
テーマ	VII. DXの推進による利便性の高いまちづくり



KPI (重要業績評価指標) の名称	ODI指標	指標	単位	現状値	目標値	総合戦略
①行政サービスのデジタル化が進んでいる	★	行政DX満足度	%	17.2	30	●
具体的な施策						
①全町的DXの推進による業務効率化		②AI・デジタルなどの新技術の活用				

03

総合振興計画
策定プロセス

計画策定プロセスの概要

本計画ではまず、次の10年を考えるための現状把握を目的として、ヒアリングや住民会議等で現場の声を集めました。次に、今後の人口についてのシミュレーションを行いました。さらに、定住のための必要条件について既存の研究結果等を参照しながら検討を行いました。

1

ヒアリングによる 現状や課題の把握

- 役場内各課ヒアリング
- 民間事業者等ヒアリング
- 振興計画審議会
- 住民会議
(おおなんの未来を語ろう! 2035)
- 次世代の確保に向けた検討

2

人口等の シミュレーション実施

- 人口をはじめとしたデータの
分析とシミュレーション

3

定住につながる 必要条件の検討

- 「町内における定住」につながる
必要条件の検討
- 次世代の確保に向けた検討

03

総合振興計画
策定プロセス

住民会議・ヒアリング等の実施概要①

ヒアリング等で得られた意見の概要

- 役場内各課、関係機関等を対象としたヒアリングの実施
- 振興計画審議会での議論、意見表明

強み
<ul style="list-style-type: none"> ○農作物 <ul style="list-style-type: none"> ➔ 稼げる仕事への転換 ○立地（広島県隣接） <ul style="list-style-type: none"> ➔ 多様な人が行き交うエリア



弱み
<ul style="list-style-type: none"> ○地域農業の要素が少ない ○福祉が弱い ○情報発信が足りない ○計画の実効性が低い



今後大切にしたい視点	
<ul style="list-style-type: none"> ○町としてのリニューアル ○突き抜けた特徴を出す ○社会増につながる取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ●計画としての前提部分
<ul style="list-style-type: none"> ○経済循環の仕組みづくり ○農業で食べていける人材育成 ○新たな観光施策 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域経済 ●基幹産業
<ul style="list-style-type: none"> ○福祉の仕組み・コミュニティづくり ○健康長寿の観点 	<ul style="list-style-type: none"> ●医療 ●福祉 ●保健
<ul style="list-style-type: none"> ○空き家活用 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の基盤
<ul style="list-style-type: none"> ○若者がチャレンジしやすい環境づくり ○いきいきとした大人の姿を見せる ○外国籍の方・世帯への支援 ○地域人材のボーダレス化 	<ul style="list-style-type: none"> ●次世代人材育成 ●教育 ●マインドセット

03

総合振興計画
策定プロセス

住民会議・ヒアリング等の実施概要②

住民会議「おおなんの未来を語ろう!2035」

① 住民会議とは

18歳以上の方を対象に「住民基本台帳」から無作為で1,000名を選出し、その中から参加の意向を示された方が直接集まって協議する場＝住民会議を計3回開催しました。参加の意向を示されたのは、38名でした。



② 住民会議の開催趣旨

現代社会は正解のない時代、予測困難な時代であり、これまで以上に町民と自治体と同じ方向を向いて取り組む「パートナーシップ」の構築・強化が大切です。そのために、住民会議「おおなんの未来を語ろう!2035」を通じて、建設的な議論、意見交換ができる場づくりに取り組みました。

開催日	参加者	場所	協議内容
令和7年8月30日(土)	35名	田所公民館	グループセッション ① 邑南町のここが好き ② 10年後、こうなっていたらいいな
令和7年10月11日(土)	23名	田所公民館	グループセッション ① 前回の振り返り ② 将来像につながる取り組み「ロジックモデル」検討
令和8年1月31日(土)	12名	田所公民館	グループセッション ① 総合振興計画素案の共有 ② 私の挑戦

03

総合振興計画
策定プロセス

住民会議・ヒアリング等の実施概要②

第1回 住民会議「ひとを育てる」

「ひとを育てる」のテーマでは、地域の中での学びや子育て、公民館等を生かした多様な学びなどについての様々な意見が出され、全体として「挑戦」というキーワードが示されました。

〈第1回での意見〉

テーマ	好きなところ・良いところ	こうなったいいな
ひとを育てる	地域全体で子育てを見守る協力体制／子どもたちの明るさとアイデアの豊富さ／医療費無料や子育て支援の手厚さ／Uターンを受け入れ体制／自然豊かで静かな環境、歴史文化の魅力／縦横の世代を超えたつながり、アットホームな雰囲気	子どもたちが将来戻りたいと思える町／学校選択肢の充実、小規模校や統廃合への丁寧な対応／公民館や地域資源を生かした多様な学びの場／安定した働く場所・生活基盤の整備／広域交流を支える交通手段の拡充／教育現場と地域の一体化／コミュニティ・スクールの仕組みの活用



〈第1回の総括〉

挑戦を育てる、学びのまち

- 将来帰りたと思える町づくりが進む
- 地域と教育現場との一体化・連携強化＝コミュニティ・スクールが効果発揮される
- 子どもの広域交流を支える交通手段が確保される
- 教育（学校）の選択肢充実、懸念事項への丁寧な対応がされる

03

総合振興計画
策定プロセス

住民会議・ヒアリング等の実施概要②

第2回 住民会議「ひとを育てる」

第2回の「ひとを育てる」のテーマでは、挑戦を育てる学びの機会創出のための様々な意見が寄せられました。「地域とのつながり」の重要性についても指摘がありました。

〈第2回での意見〉

	行政・教育委員会	地域・団体	個人（私も含む）
だれがする？	つなぎ役 公民館 学校、地域、先生 行政	社協 シルバー人材センター 自治会 意見を言える場をつくる 金融や保険等の技術を学ぶ機会づくり	大人になっても知識を得たい
なにをする？	個々の技術をつなげる機会をつくる ／親子活動、親の考えを見せる／お金の仕組み学び直し／試す場をつくる ／DX、デジタルへの入り口をつくる／コミュニティ・スクールを生かす／学校予算充実／フィールドワーク、バスの周遊で学ぶ	学校のカリキュラムの転換／地域を超えて学ぶ／eスポーツなど間口を広げる取り組み／子どもの思いを発表できる場（表現）を用意する／地元を思う気持ち／シルバーセンターの年代をなくす	帰ってきやすい環境をつくる／興味を持つ分野を見つける／学びをつなげる、共有／出ている人へのアプローチの仕方を考える／学んだことを生かせる場をつくる
したらどうなる？	地域理解になる／学校の学習時間（準備）が整う／安心して気軽に参加して試せる／子どもらしく、大人らしく、おじいちゃん・おばあちゃんらしく	テクノロジーへの関心に繋がる／自然に帰ってくる環境／楽しい思い出が原点でUターン／横のつながり連携ができる／帰ってこいと言わず帰ってきた	スキマバイト草刈り／地域貢献につながる／農業も大人になってからの学びになる／親の声かけでUターン
ゴール	挑戦を育てる、学びのまち		

03

総合振興計画
策定プロセス

住民会議・ヒアリング等の実施概要②

第1回 住民会議「しごとを伸ばす」

「しごとを伸ばす」のテーマでは、豊かな自然資源を生かした農林業についてや官民の協力体制があることなどの好意的な意見がありました。今後、ブランド化による収入向上などを望む声もいただきました。

〈第1回での意見〉

テーマ	好きなところ・良いところ	こうなったらいいな
しごとを伸ばす	おいしい農産物や飲食店の充実／豊かな自然や土地資源／農業に対する受容性と官民協力の姿勢／静かな生活環境、広島へのアクセスの良さ／林業や観光資源（スキー場など）の存在	農業ブランド化・組織化による収入向上／ほ場・水路整備で若者が農業に取り組める仕組み／すき間バイトなどの収入増の仕組み／農業・林業を学ぶ教育機会の充実／土地・山の有効活用（貸出・ブランド化）／起業支援・投資制度の整備と官民連携／夜の飲食や交通整備による利便性向上



〈第1回の総括〉

おおなんブランドで未来を耕す

こうなったらいいな

- ブランド化等を通じた農業、山仕事（林業等）の付加価値化
- 次の圃場整備・水路整備による効率的な耕作環境推進
- 起業支援、投資制度等チャレンジの推進
- 農林業を学ぶ機会の充実
- 草刈り等をカバーするバイト等の仕組みづくり・収入増の仕組み

03

総合振興計画
策定プロセス

住民会議・ヒアリング等の実施概要②

第2回住民会議「しごとを伸ばす」

第2回の「しごとを伸ばす」のテーマでは、「おおなんブランド」確立に向けた具体的なアクションについて、多くのアイデアが寄せられ、「挑戦」というキーワードも示されました。

〈第2回での意見〉

	行政・教育委員会	地域・団体	個人（私も含む）
だれがする？	行政がサステナブル住宅建設 新たな企業誘致、新しい風 挑戦を支援する企業（ベンチャー） →新たな仕事づくり	町内投資応援システムの構築と管理	町内の事業へ有志が投資 応援→町内産品 省人投資（応援）をバランスよく行う （町内後援）
なにをする？	テクノロジー活用／道の駅の活用、その後の導線調査／雪の活用、除雪／空き家を町が取得して改修／イベントの告知、宣伝の支援／町内の事業を応援するクラウドファンディング／町民ライフスタイルの発表の場／地元住民がわからない価値を提供	全町的スキマバイトの仕組み管理／イベントの継続仕組みづくり／横のつながりでブランドを作る／販路の開拓／神紅の箱を町産材で作る／イベントの告知／町の産品でかけ算	スキマバイト／投資で資産運用／町内へ還元／町内消費／ふるさと納税で町と役割分担／町内企業の応援／町の取り組みと並走する
したらどうなる？	町民のやる気アップ、ブランド化／小中学生、町民の発表の場に利用／ふるさと納税で生産者と協働／中国地方の真ん中をアピール／林業、木材を生かす →付加価値化／どこに誘導できるかわかる／新たな需要を知ることができる	景色がきれいに／農＋林＋土＋運＋サ X次産業／新たな価値が生まれる	町内循環（投資、消費）／循環が生まれる／町内、町外から投資消費の流れを作る
ゴール	それぞれの挑戦を支援するおおなんブランド		

03

総合振興計画
策定プロセス

住民会議・ヒアリング等の実施概要②

第1回 住民会議「くらしを守る・からだを守る」

「くらしを守る・からだを守る」の両テーマでは、それぞれにインフラや暮らしの環境、福祉や教育について、既存の施設・サービスの強みが示され、今後の防災対策強化や地域福祉の充実、教育の在り方などについて意見をいただきました。

〈第1回での意見〉

テーマ	好きなところ・良いところ	こうなったいいな
くらしを整える	広島へのアクセスの良さ／自然の美しさと町の清潔さ／人との強い繋がり／石見養護学校や矢上高校など教育施設／水やお米の美味しさ、土地資産／地域行事や文化・芸能の豊かさ	年齢や障がいの有無に関係なく安心できる生活／高齢者・子育て世代支援の充実／インターネットや交通などインフラ強化／空き家対策／人口減少への歯止め／防災対策の強化と自然環境の保全／行事やコミュニティの活性化
からだを守る	医療・福祉施設の充実／移動販売や見守りサービスの存在／近所同士の助け合い文化／体操や健診など健康維持の取り組み	医療・福祉機能を維持し後継者確保／介護家族へのサポート強化／地域コミュニケーション増加で孤立防止／訪問看護・見守りで自宅生活を支援／高齢者・子どもの見守りネットワークの充実／広報・放送による情報発信の強化／移動とサポート連携の仕組みづくり



〈第1回の総括〉

世代を超えて心地よいふるさと	地域まるごとセーフティネット
<p>こうなったいいな</p> <ul style="list-style-type: none"> ○防災対策の強化と自然環境の保全 ○誰もが安心して生活できる環境づくり ○インターネット、交通などの新旧インフラの整備・充実 ○空き家対策などによる人口減少社会への対応 	<p>こうなったいいな</p> <ul style="list-style-type: none"> 〈共助〉 移動・交通のサポート／自宅で暮らし続けられる仕組み 〈互助〉 コミュニティで孤立防止／見守りネットワーク充実 〈公助〉 医療福祉施設の継続／介護家族へのサポート強化・充実

03

総合振興計画
策定プロセス

住民会議・ヒアリング等の実施概要②

第2回 住民会議「くらしを守る・からだを守る」

第2回では、密接に関係する「くらしを守る・からだを守る」についてのテーマを統合し、広義の意味における生活環境の視点から、様々な意見をいただきました。

〈第2回での意見〉

	行政・教育委員会	地域・団体	個人（私も含む）
だれがする？	行政・社協 町立の教育機関	地域運営組織	自分
なにをする？	公民館単位で繋がりづくり／人材育成 ／地域と行政との話場づくり／できる だけ移動せずに医療が受けられる体制 ／体を動かすことが必要な仕事を 増やす／どこに相談していいかわかる システム／雪・寒さ対策（光熱費）／ 湿度対策／暮らしを快適にする情報 を知れる（ネット、紙など各種）／町内 で完結／文化的な価値を高める／ 草刈り→若い人を誘導	地域計画の作成・共有／空き家問題／ ヘルパー／要介護や支援でない方の フォロー／見守り、相談業務／若い人 が住める働ける帰ってきたいと思う／ 学びの講座（ケーブルTV）	空き家の管理／自分自身が健康で/ 行き来するための交通手段の整備/ テクノロジーを活用（見守り機能など）
したらどうなる？	わかりやすい仕組み、情報が集まる ／正しい情報がわかる／CATVでも わかる	若い人が暮らせると地域に参画する ／町の全体がわかる／地域によって 異なることを知る／課題が共有される ／共有の場ができる／「他人ごと」から 「自分ごと」に	町内で住む（働く）人が増える／楽しい 部分がある／地域貢献
ゴール	世代を超えて安心できる心地よいふるさと		

03

総合振興計画
策定プロセス

住民会議・ヒアリング等の実施概要③

メッセージ・ツリー

町内の小・中学生を対象として、子どもたちが望む「10年後の邑南町」を表現してもらいました。

実施時期	令和7年6～7月
対 象	邑南町の小中学生および石見養護学校小学部・中学部の児童・生徒
実施方法	各学校を通じてメッセージカードを配布し、授業等の時間を使ってメッセージを記入・回収
結果概要	<ul style="list-style-type: none">○小・中学生ともに「すみやすい・暮らしやすい」や「あかるい」といった将来像を望む姿が確認できた○小学生では、「えがお」や「ふれあえる」といった言葉が頻出しており、町が目指す大きな方向性とも合致している○中学生では、「自然」や「森林」、「豊か」などの言葉が多く出ており、森林資源の活用や豊かな生物多様性の保全といった取り組み方針と合致している○その他、「ゲームセンター」、「ゆうえんち」、「ショッピングセンター」などを求める声も多く出されていた

町内展示

- 令和7年10月／田所公民館 1F ロビー
- 令和7年12月／あいタウン アベル

上記期間メッセージ・ツリーを展示公開し、子どもたちの思いについて町民の方に知っていただく機会としました。



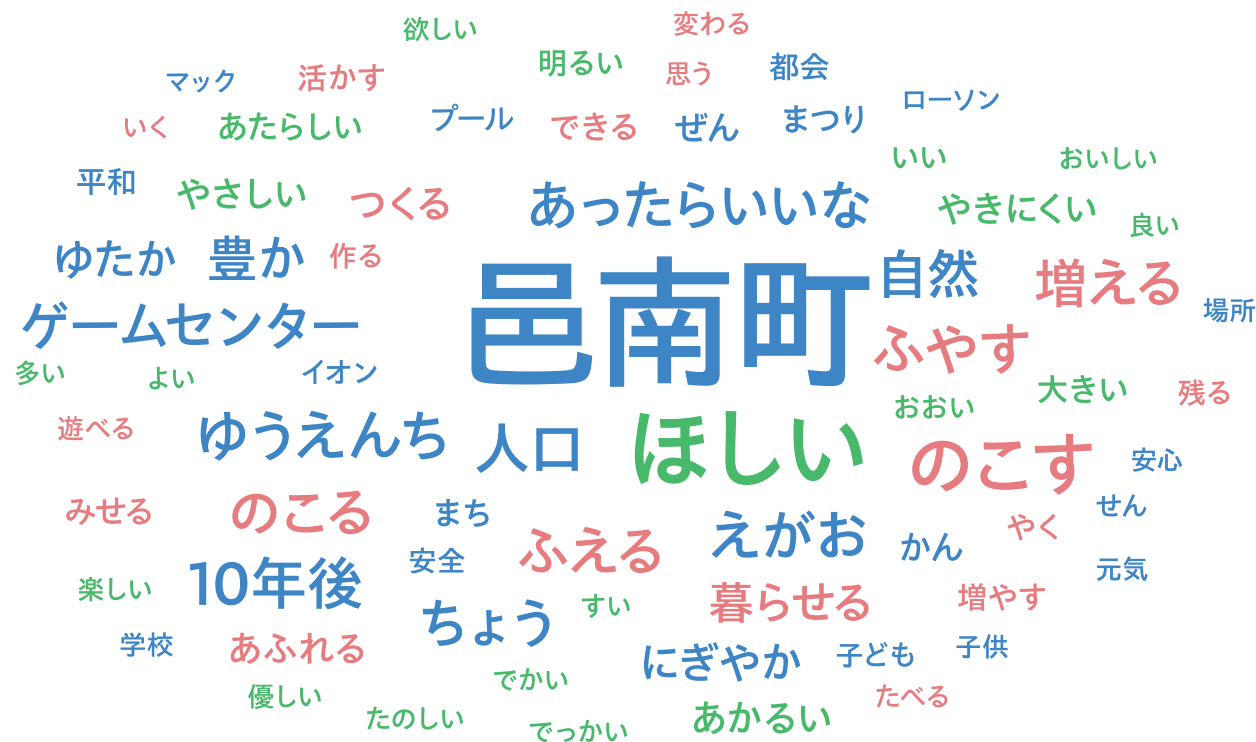
03

総合振興計画
策定プロセス

住民会議・ヒアリング等の実施概要④

子どもたちが描く10年後の邑南町（全体）

メッセージカードに記入してもらった子どもたちからの意見等のテキストマイニング（言葉の頻出度や一つの文章で一緒に出てくる言葉同士の分析など）を行いました。



●小・中・養全体から得られた言葉の傾向

分類	頻出した言葉
● 形容詞	ほしい あかるい やさしい あたらしい
● 動詞	のこす・のこる ふれあえる ふえる 暮らせる
● 名詞	邑南町 ゆうえんち えがお ゲームセンター 自然

出典：ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析
(<https://textmining.userlocal.jp/>)

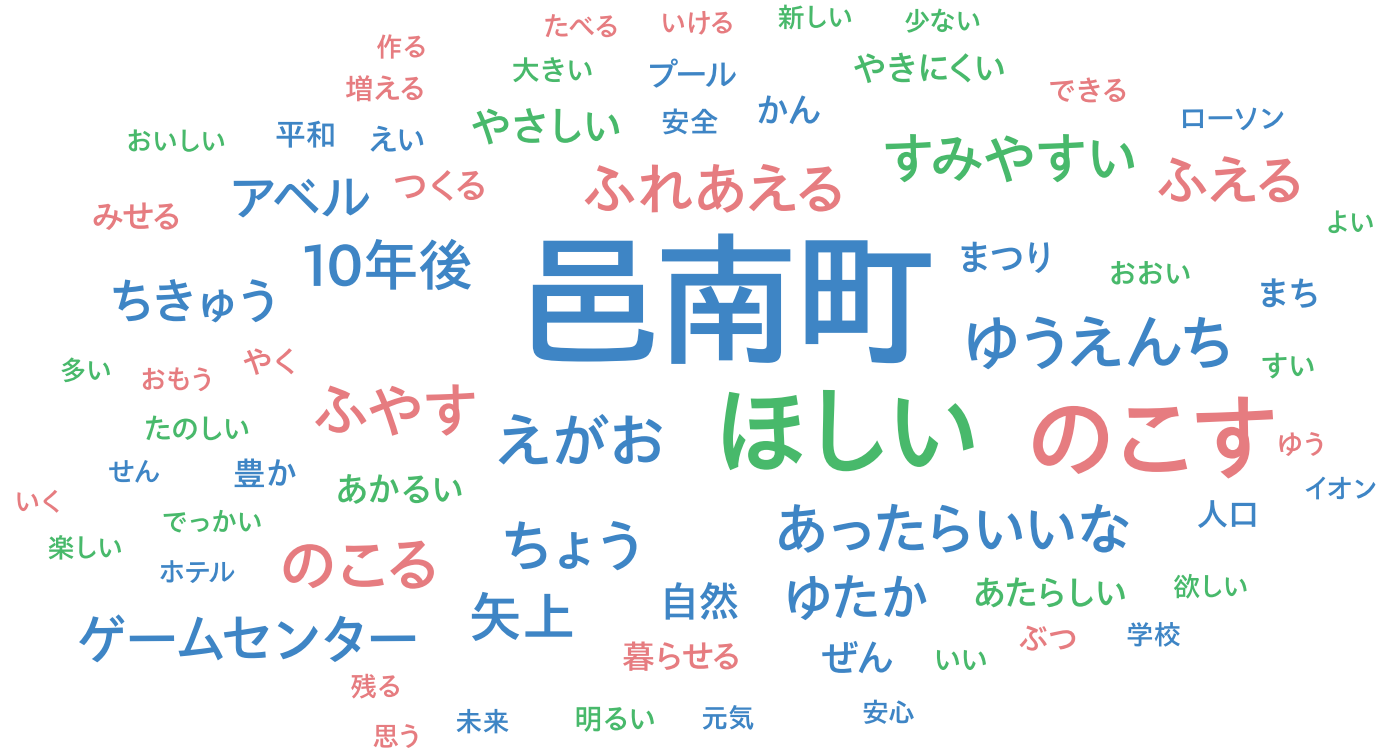
03

総合振興計画
策定プロセス

住民会議・ヒアリング等の実施概要④

子どもたちが描く10年後の邑南町 (小学生)

メッセージカードに記入してもらった子どもたちからの意見の中で、小学生から得られた言葉について分析を行いました。



●小学生から得られた言葉の傾向

分類	頻出した言葉
● 形容詞	ほしい すみやすい やさしい あかるい
● 動詞	のこす・のこる ふれあえる ふえる・ふやす
● 名詞	邑南町 ゆうえんち えがお アベル ちきゅう

出典：ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析
(<https://textmining.userlocal.jp/>)

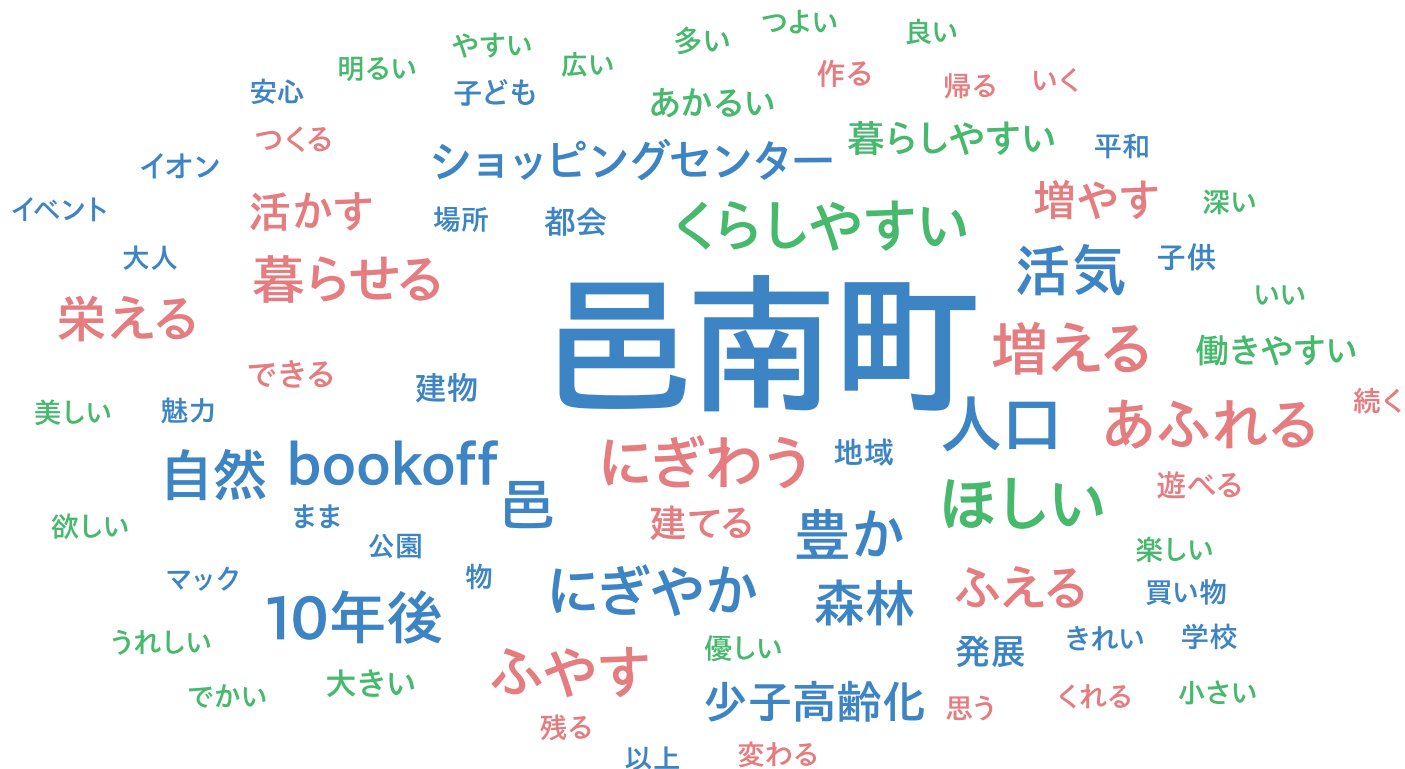
03

総合振興計画
策定プロセス

住民会議・ヒアリング等の実施概要④

子どもたちが描く10年後の邑南町（中学生）

メッセージカードに記入してもらった子どもたちからの意見の中で、中学生から得られた言葉について分析を行いました。



●中学生から得られた言葉の傾向

分類	頻出した言葉
● 形容詞	ほしい 暮らしやすい 働しやすい あかるい
● 動詞	増える あふれる 暮らせる 栄える にぎわう
● 名詞	邑南町 ショッピングセンター 自然・森林 人口

出典：ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析
(<https://textmining.userlocal.jp/>)

03

振興計画審議会の経過

総合振興計画
策定プロセス

回	開催日時	議題	備考
第1回	令和7年3月24日 14:00-16:00	<ul style="list-style-type: none"> ●町長あいさつ ●委員の自己紹介、顔合わせ、町への思い ●現状の情報共有 <ul style="list-style-type: none"> ①人口面 ②研究・施策の状況 ③総合振興計画とは、総合戦略との一体化 ●座長の選任 	邑南町役場大会議室 (令和6年度開催)
第2回	令和7年5月20日 15:30-17:30	<ul style="list-style-type: none"> ●計画骨子案について <ul style="list-style-type: none"> ①総合計画のコンセプト ②体裁・内容 ●おおなん活力インデックスについて ●住民会議開催について 	邑南町役場大会議室
第3回	令和7年9月25日 14:00-16:00	<ul style="list-style-type: none"> ●これまでの検討状況について <ul style="list-style-type: none"> ①人口シミュレーション ②住民会議 ③おおなん活力インデックス ●計画骨子案について 	邑南町役場大会議室
第4回	令和7年11月25日 9:30-12:00	<ul style="list-style-type: none"> ●計画素案について 	邑南町役場大会議室
第5回	令和8年1月23日 14:00-16:00	<ul style="list-style-type: none"> ●計画案について 	邑南町役場第1会議室

03

振興計画審議会委員名簿

総合振興計画
策定プロセス

氏名	所属	役職	備考
武田正文	邑南町教育委員会	教育委員	
三上孝行	邑南町農業委員会	会長	
上田健	JA 島根おおち地区本部	営農部営農施設事業所統括課石見事業所所長	
光田大輔	邑智郡森林組合	支所長	
渡邊健二	邑南町社会福祉協議会	事務局長	
林ゆかり	邑南町商工会	女性部長	
種文昭	邑南町老人クラブ連合会	事務局長	
村田光治	一般社団法人 邑南町観光協会	常務理事	
作野広和	島根大学	教授	
福井英樹	山陰中央新報社	西部本社代表	
小池俊太郎	日本政策金融公庫浜田支店	支店長	
種宏樹			公募委員
河野光也			公募委員
森岡千登栄			公募委員
恩田智恵			公募委員

04

用語解説①

関連資料

本編／アルファベット順 **A**～**Z**

用語	解説	本編掲載ページ
AI	人工知能 (Artificial Intelligence) のことを指します。大量のデータを分析してルールやパターンを見つけ出し、自律的に処理や予測を行うことが特徴で、翻訳・自動運転・画像認識・文章生成など多様な分野で活用されています。	01・14・23・51・57
CATV	ケーブルテレビのことであり、専用のケーブルを通じて、テレビ放送・インターネット・電話サービスなどを提供する有線インフラを指します。	09
DX	デジタル・トランスフォーメーション (Digital Transformation) の略で、データとデジタル技術を活用し、製品・サービス、組織・文化を抜本的に変革し、競争優位性を確立することを意味します。単なる業務効率化 (IT化) ではなく、新しい価値の創造を目的としています。	11・28・30・49・51
Iターン	生まれ育った故郷とは異なる地域へ移り住むことで、主に大都市圏からの移住のことを指します。	03
JV	ジョイントベンチャー (Joint Venture) の略です。複数の企業が共同で出資し、新たな事業を展開する「共同企業体」などを指します。	34
J-クレジット	省エネ・再エネ設備の導入や森林管理などで実現した温室効果ガスの排出削減・吸収量を、国が「クレジット (排出権)」として認証する制度です。	32
KGI	重要目標達成指標 (Key Goal Indicator) の略で、本計画が最終的に目指す成果を「数値」で定量的・客観的に定めた指標です。	06・07・56
KPI	重要業績評価指標 (Key Performance Indicator) の略です。本計画が最終目標 (KGI) を達成する過程で、その進捗状況を定量的 (数值的) に把握するための「中間指標」であり、本計画においては、「目標・指標」として取り扱っています。	-
PDCA	Plan (計画)、Do (実行)、Check (チェック)、Act (改善) の4つの工程を循環させ、業務やサービスを継続的に向上させる管理手法です。	52
SNS	ソーシャル・ネットワーキング・サービス (Social networking services) の略です。インターネット上でユーザー同士がプロフィールや投稿を通じ、交流や情報発信を行う会員制サービスです。	31
Tech	テクノロジー=科学技術 (Technology) のことで、現代では主に情報通信技術、ビッグデータ等を活用して新たな価値や仕組みを生み出すサービスなどを指します。	26
Uターン	出身者が進学・就職等で大都市圏へ移住した後、再び生まれ故郷に戻って定住することを指します。	03・42

04

用語解説②

関連資料

本編／五十音順 あ～か行

用語	解説	本編掲載ページ
アントレプレナーシップ(教育)	「起業家精神」のことですが、近年の用いられ方として、起業家だけでなく、組織内での新規事業開発や社会課題の解決など、あらゆる職業で求められる「枠を超えて自ら行動を起こし、新たな価値を生み出す力」を指します。アントレプレナーシップ教育とは、こうした力を育て、伸ばすための教育内容のことです。	23
インフラ	インフラストラクチャー (Infrastructure) の略であり、生活や経済活動を支える社会基盤を指します。代表的なインフラは道路・上下水道・電気・ガスなどで、近年では、インターネット環境や携帯電話基地局、データセンター等のデジタルインフラの重要性も指摘されています。	03・08・11 35・36・40
エビデンス	根拠や証拠を意味し、主張や仮説が正しいことを裏付ける客観的なデータのことを指します。	13
おおなん活力インデックス	本計画で掲げる施策等による効果を測定するため、本計画策定と合わせて取り入れた指標です。	01
オープンスクール	入学を検討している受験生や保護者、あるいは地域住民に対して、学校の雰囲気や教育内容を公開するイベントのことです。	22
協働的な学び	「個別最適な学び」と対を成す考え方で、「一人では気づけない視点や解決策を、他者との対話や協力によって生み出していく学び」のことを指します。	22
コード決済	QRコード等で認証を行い、代金を支払う電子決済システムのひとつです。	30
子育て	「子育て」が親や大人の視点(育てる側)に立っているのに対し、「子育て」は子ども自身(育つ側)の視点に立った考え方です。子どもを「育てられる対象」としてだけでなく、自ら育つ力を持った「権利の主体」として捉えています。地域や学校、社会全体の役割は、その成長を妨げず子どもの育つ環境を整え支援することにあります。	10・18
個別最適な学び	「子どもたち一人ひとりの興味・関心や理解度に合わせて、学びの進め方を最適化しよう」という考え方のことです。「指導の個別化」と「学習の個性化」の2つの柱からなる考え方です。	22
コワーキングスペース	異なる所属の利用者が、オフィス設備(机、Wi-Fi、プリンター等)を共有しつつ、それぞれ独立した仕事を行う空間のことです。利点として、利用者間の交流などが生まれることなどが特徴です。	29

04

関連資料

用語解説③

本編／五十音順 さ～は行

用語	解説	本編掲載ページ
森林管理システム	手入れ不足の森林を市町村が仲介し、林業経営者へ集約・再委託、または市町村が直接管理する仕組みのことです。	28
スキマバイト	労働者が自分の働きたい時間帯に短時間の単発の仕事をするという労働形態のことです。	33
スマート化	テクノロジーやAI等を活用し、生活や業務を自動化・効率化・最適化する取り組みのことです。	11・14・26・41
多文化共生	出自・背景などが異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくことです。	09・11・43・47
地域運営組織	地域で暮らす人々が中心となって、自分たちで作った地域計画に基づきながら、地域課題の解決に取り組む組織のことです。略称は「RMO（アール・エム・オー）」です。	01・16・24・44・46 47・52・53・54・57
地域マネージャー	地域運営組織の認定を受けた地区に配置できる、地域運営の推進役のことです。	16・44・57
超高速インターネット	主に下り（ダウンロード）最大1Gbps～10Gbps以上の高速・大容量通信が可能なインターネット回線の総称です。4K・8K動画の視聴、オンラインゲーム、複数端末の同時利用、大容量データ転送などをストレスなく快適に楽しむための環境を指します。	40
テクノロジー	科学技術全般を意味する言葉ですが、本計画においては、特に情報通信技術のことを指して用いています。	01・10・14・23・26 36・40
パートナーシップ	企業・団体等が共通の目的や利益のために、対等な立場で互いに協力・支援し合う関係や仕組みのことであり、本計画では、行政と町民、行政と地域運営組織の関係性を指します。	44
パンデミック	感染症の世界的大流行を指します。近年では、インフルエンザや新型コロナウイルスなどがよく知られています。	01
ヒアリング	聞き取り調査のことです。関係者から、抱えている課題や意見・要望等を聞き出し、把握する調査手法です。	01
プレコンセプションケア	若い男女が将来のライフプランを考えながら、日々の生活や健康と向き合うことです。	19

04

用語解説④

関連資料

本編／五十音順 ㊦～㊨行

用語	解説	本編掲載ページ
有収率	浄水場から送り出した総配水量のうち、水道料金の対象となる「有収水量」が占める割合のことです。水道事業の経営効率や漏水の少なさを示す指標で、数値が高いほど効率的に水が届いていることを意味します。	15・37
ライフステージ	就職・結婚・出産・子育て・退職等、人生の節目となる出来事で区分される、人生における段階のことです。	19
ライフプラン	人生設計、生涯設計のことです。	19
リモートセンシング	ドローンなどに搭載したセンサーを用い、離れた場所からその形・性質・状態等を電磁波(光や電波)で測定・観測する技術のことを指します。	41
レジリエンス	困難・逆境・ストレス等に直面した際、しなやかに適応し、立ち直る「回復力」や「弾力性」を意味する言葉です。単に耐えるだけでなく、危機を乗り越えて成長する能力を指します。	49
ロールモデル	考え方や行動が他の人の規範となる人物のことを指します。	13・20

資料編／五十音順

用語	解説	資料編掲載ページ
グループセッション	少人数(5人程度)のグループに分かれ、テーマに基づいて議論や意見交換をする手法のことです。大人数だと話しにくい人にも発言してもらいやすくなるといった効果があります。	28
メッセージ・ツリー	本計画を策定するために実施した町独自の取り組みです。町内の小・中学校を通じて子どもたちに「10年後の邑南町の姿」を文章で描いてもらいました。	35
テキストマイニング	文章データを分析し、言葉の登場頻度や傾向、関係性などを見つけ出す手法のことです。アンケートの自由記述やSNSの投稿など、大量の文章の中から「何が多く語られているか」や「どんな意見が多いか」などを整理して、全体の特徴を読み解くために用いられます。	36・37・38
ロジックモデル	その活動が「何をして、どんな変化を生み、どんな成果につながるか」という流れを、筋道を立てて示した設計図のようなものです。	28

04

関連資料

町民憲章・条例①

邑南町民憲章

私たち邑南町民は、郷土の美しい自然、輝かしい歴史と伝統を受け継ぎ、新たな時代にふさわしい町づくりのため、協働の気持ちをもって実践する道しるべとして、この憲章を定めます。

- 一、人を尊び心のかような町をつくります
- 一、郷土を愛し自然を守り美しい町をつくります
- 一、教育を大切にし文化を培う学びの町をつくります
- 一、産業を育て活気あふれる豊かな町をつくります
- 一、お年寄りを敬い子どもの夢を育む健やかな町をつくります

平成17年3月26日制定

04

関連資料

町民憲章・条例②

邑南町まちづくり基本条例

平成19年3月30日

条例第21号

目次

前文

第1章 総則(第1条—第3条)

第2章 まちづくりの基本理念(第4条・第5条)

第3章 参加・協働(第6条—第9条)

第4章 情報の共有(第10条—第13条)

第5章 コミュニティ(第14条・第15条)

第6章 伝統・文化・暮らしの伝承と環境保全(第16条・第17条)

第7章 町議会(第18条)

第8章 町(町の執行機関)(第19条—第23条)

第9章 この条例の見直し(第24条)

附則

(前文)

邑南町は、島根県中南部、中国山地のただなかに位置し、中国太郎江の川といくつかの支流が流れ、たくさんの動植物が生息する、山河の自然あふれるところです。かつて先人達は、額に汗しながら川沿いの平坦地を耕し、溪流沿いに棚田を造成し、背戸山を管理して、自然の恵みを受けながら細やかな地域コミュニティの中で里山の暮らしを守り育んできました。そしていま、わたしたちの生活は、その先人達から受け継いだふるさとで営まれています。わたしたちは先人の英知に学び、努力に習い、豊かな自然環境と培われてきた伝統的生活文化を大切に未来に引き継いでいくとともに、一人ひとりが自助と自立の心を持って主体的にまちづくりを考え、人権を尊重しあい互助の精神をもちながらコミュニティを形成していくことで、まちづくりの礎を築きます。そして、わたしたちは、そのコミュニティを基軸にして、「自立した田舎づくり」を目指します。

邑南町は平成16年10月、町村合併によって誕生した新しい町です。この町村合併を契機に町民と町が共通の目標を定め、それに向かい共に「和」をもって行動することが大切です。そこでわたしたちは邑南町民憲章の通り、町民と町がまちづくりの基本理念を共有し、相互の協働による自立した地域社会を実現していくために、この条例を制定します。

04

関連資料

町民憲章・条例②

邑南町まちづくり基本条例

第1章 総則

(目的)

第1条 この条例は、邑南町のまちづくりの基本理念を明らかにするとともに町民参加の権利と責任、町民と町の役割や責務を明確にすることによって、相互理解のもと、協働でまちづくりが進められていくことを目的とする。

(用語の定義)

第2条 この条例において次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) まちづくり 町民が安心して安全に暮らせ、心豊かに生活できる環境をつくるための取り組みをいう。
- (2) 邑南町 町全体をいう。
- (3) 町民 町内に在住、在勤又は在学する個人及び町内に事務所又は事業所を有する法人その他の団体をいう。
- (4) 町 町議会及び町の執行機関(町長、各委員会、審議会等)をいう。
- (5) 参加 まちづくりに関する各種事業の計画、実施及び評価に関し、意見を述べるなど町民自らが主体的にかかわることをいう。
- (6) 協働 町民と町が同一の目的を達成するため、互いの責任のもと共に協力して活動することをいう。
- (7) コミュニティ 集落や自治会など一定の地域を媒介として結ばれる共属意識が形成されている組織をいう。

(条例の位置づけ)

第3条 この条例は、邑南町のまちづくりの基本理念を定めたものであり、他の条例、規則等の制定改廃にあたっては、この条例の趣旨を最大限に尊重するものとする。

第2章 まちづくりの基本理念

(まちづくりの主体と参加の権利)

第4条 まちづくりの主体は町民であり、誰もが互いに平等な立場で自由に参加する権利を有する。

(まちづくりの基本原則)

第5条 町民と町は、第1条の目的を達成するため次の各号に掲げる基本原則に基づき、まちづくりを進めていくものとする。

- (1) 町民と町は、互いの役割と責任のもと、協働でまちづくりを進めていくものとする。
- (2) まちづくりは、町民と町が必要な情報を共有しながら進めていくものとする。
- (3) 町民と町は、コミュニティがまちづくりにおいて重要な役割を果たすことを認識し、これの育成、発展に努めるものとする。
- (4) 町民と町は、培われてきた自然・伝統・文化・暮らしを大切にし、邑南町の特性を活かしたまちづくりを進めていくものとする。

04

関連資料

町民憲章・条例②

邑南町まちづくり基本条例

第3章 参加・協働

(町民参加の場の確保)

第6条 町は、町の実施する主要な事業等について町民の意思が反映されるよう計画、実施及び評価、それぞれの過程において町民の参加を保障し、その機会の確保に努めなければならない。

(町民の参加と責任)

第7条 町民は、まちづくりに参加する場合において自らの責任ある発言と行動に努めるものとする。

(審議会等への参加)

第8条 町は、審議会、委員会などの委員には、定数の一部に公募の委員を加えるよう努めなければならない。

(計画策定への参加)

第9条 町は、重要な計画の策定においては、広く町民の参加を求めて協働により策定しなければならない。

第4章 情報の共有

(町民の権利)

第10条 町民は、まちづくりに関して町が持つ情報を取得する権利を有する。

(情報収集と共有)

第11条 町民はまちづくりに参加するため、町の発信する情報を自ら知るように努めるものとする。

2 町民は、まちづくりに関する情報を町に提供するとともに、町民同士で共有するよう努めるものとする。

(説明責任と情報公開)

第12条 町は、町政に関する意思決定の過程を明らかにすることにより、町の各種事業の内容が町民に理解されるよう努めなければならない。

2 町は、まちづくりに関する情報を迅速に提供できるよう整理、保存しなければならない。

(審議会等への参加)

第13条 町は、個人の権利及び利益が侵害されることがないよう個人情報保護に努めなければならない。

04

関連資料

町民憲章・条例②

邑南町まちづくり基本条例

第5章 コミュニティ

(町民の役割)

第14条 町民は、コミュニティがまちづくりの基盤を担う重要な組織であることを認識し自主的、自立的な活動団体となるよう努めるものとする。

(コミュニティの育成)

第15条 町民は、自らの住む地域に誇りと愛情を持ち、「自分たちの地域は自らの手で創りあげる」という思いをもちコミュニティを守り育てるものとする。

2 町民は、民主的な地域運営を進めるため、女性・若者・子ども達を含めた一人ひとりの意見が反映されるコミュニティづくりに努めるものとする。

3 町民は、子どもからお年寄りまですべての人たちが安心して安全に過ごせるコミュニティづくりに努めるものとする。

第6章 伝統・文化・暮らしの伝承と環境保全

(伝統・地域文化・暮らしの継承)

第16条 町民は、培われてきた伝統的文化や暮らしを大切にするとともに、将来にわたり引き継ぐよう努めるものとする。

(環境保全)

第17条 町民は、邑南町の豊かな自然環境の価値を理解し、一人ひとりが環境への負荷の低減に努めるものとする。

第7章 町議会

(町議会の責務)

第18条 町議会は、町的意思決定機関として、町民の意思が町政の運営に適切に反映されるよう活動しなければならない。

2 町議会は、町政が町民の意見を反映し、適切に運営されているか調査及び監視するとともに、その結果を町民にわかりやすく明らかにしなければならない。

04

関連資料

町民憲章・条例②

邑南町まちづくり基本条例

第8章 町（町の執行機関）

（町の役割）

第19条 町は、町民ニーズに適切に応えるため、分かりやすく機能的な組織づくりに努めるとともに、職員の資質の向上に努めなければならない。

（町民からの意見・要望・苦情等への対応）

第20条 町は、町民から意見、要望、苦情等があった場合には速やかに事実関係を調査し、責任をもって応答するものとする。

（行政評価）

第21条 町は、町の施策や事業が能率的かつ効果的に行われているかどうかを定期的に評価し、その結果をわかりやすく公表するよう努めるものとする。

（町長の責務）

第22条 町長は、町政の執行者として町の事務を総合的に管理し、この条例の理念に基づき公正かつ誠実に町政を執行しなければならない。

（町職員の責務）

第23条 町職員は、町民との信頼づくりに努め自ら積極的にまちづくりに取り組まなければならない。

2 町職員は、多様化する住民ニーズに応えるため必要な能力開発と自己啓発に努めなければならない。

第9章 この条例の見直し

（条例の見直し）

第24条 この条例は、邑南町のまちづくりの基本理念をもとに住民参加・協働の仕組みなどについて取り決めたものであり、今後の社会情勢の変化等により改正する必要がある場合は、速やかに検討を行い、この町にふさわしい条例となるよう町民の意見を反映しながら見直しを行っていくものとする。

附 則

この条例は、平成19年4月1日から施行する。

04

関連資料

町民憲章・条例③

邑南町振興計画審議会条例

平成16年10月1日
条例第28号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第138条の4第3項の規定に基づき邑南町振興計画審議会の設置及び運営に関する事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 町の振興計画に関して町長の諮問に応じるため邑南町振興計画審議会（以下「審議会」という。）を設置する。

(組織)

第3条 審議会は、委員16人以内で組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者の中から町長が任命する。

- (1) 教育委員会の委員
- (2) 農業委員会の委員
- (3) 公共的団体の役職員
- (4) 学識経験者
- (5) 公募による委員

(会長)

第4条 審議会に会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 会長は、会務を総理する。
- 3 会長に事故があるとき又は欠けたときは、会長があらかじめ指定した委員が会長の職務を代理する。

(委員)

第5条 委員の任期は、1年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、非常勤とする。

(会議)

第6条 審議会の会議は、会長が招集する。

2 審議会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数で決し可否同数のときは会長の決するところによる。

(委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、町長が別に定める。

附 則

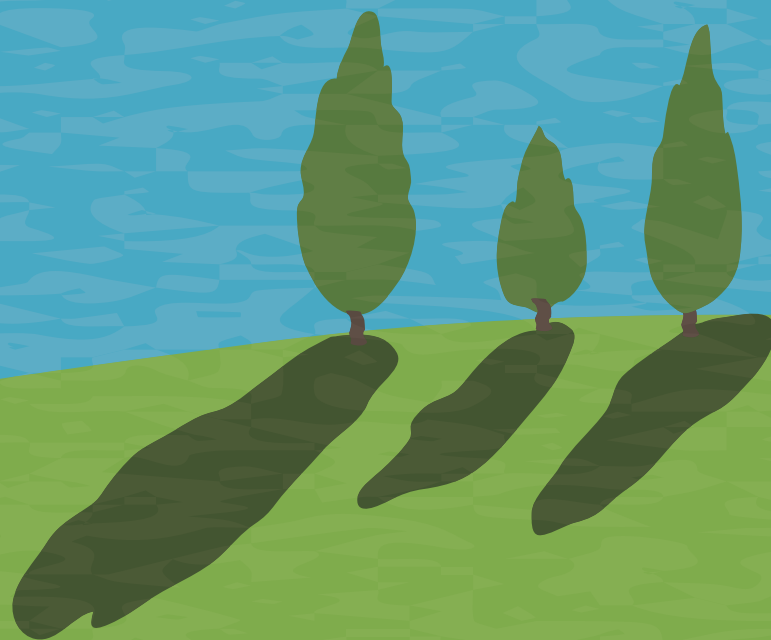
この条例は、平成16年10月1日から施行する。

附 則（平成26年6月30日条例第24号）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（令和6年9月20日条例第42号）

この条例は、公布の日から施行する。



邑南町役場 電話 0855-95-1111 (代表)

〒696-0192 島根県邑智郡邑南町矢上6000番地

URL <https://www.town.ohnan.lg.jp>